

お薬のしおり

片頭痛とお薬 No.151 (H26.9)

東京医科大学病院 薬剤部

暑さも和らぎ過ぎやすい時期になってきましたが、みなさんは頭痛に悩まされた経験はありませんか？頭痛の原因は、いろいろありますが、原因となるような疾患がなく、繰り返し起こる頭痛を慢性頭痛と呼び、片頭痛・緊張型頭痛・群発頭痛がこれに該当します。これらは頭痛全体の約 80%を占めると言われています。

そこで今回は、頭痛の中でも片頭痛について取り上げ、片頭痛の概要や治療方法について紹介します。全国調査によると、日本人の 8.4%、約 840 万人が片頭痛に悩まされていると言われています。女性は男性よりも割合が高く（約 3.6 倍）、30 歳代の女性では 5 人に 1 人が片頭痛であるとされています。片頭痛の原因は、ストレスや飲酒、女性の場合は月経による女性ホルモンの分泌バランスの変化が挙げられ、不規則な睡眠、天候や温度の変化などの影響を受けることもあります。片頭痛の主な症状は、片側あるいは両方のこめかみから目のあたりにかけて、脈を打つように「ズキンズキン」とした痛みで、痛み出してから比較的長い時間続きます。また、前兆の有無によって 2 種類に分けられ、約 20~30%が前兆のある片頭痛のタイプです。前兆のある場合には、頭痛が起こる前に、目の前にチカチカと光るフラッシュのようなものがあらわれ、視野の片側、または中心部が見えにくくなる閃輝暗点を生じることが多いのですが、手足のしびれや感覚が鈍くなる、言葉が話しにくくなるなどの症状が現れる場合もあります。このような前兆の多くは 15~30 分で消失し、続いて頭痛が始まります。

では、片頭痛が起きてしまったときにはどのように対処したら良いのでしょうか。片頭痛の症状が起きている間は立ったり動いたりするのもつらいので、静かな部屋で横になり安静にし、数時間休息や睡眠を取るようにしましょう。また、頭を保冷パックや氷枕などを用いて冷やしたり、熱いタオルや使い捨てカイロなどを用いて温めたりすることも効果的です。



片頭痛の治療に用いるお薬は、頭痛の発作ほっさが起きた時に痛みそのものを軽減けいげんさせて発作を抑えるお薬と、頭痛の持続時間を短縮たんしゅくするために頭痛発作が起こっていない時期に用いる予防のお薬があります。

●片頭痛の発作を抑えるお薬：

・トリプタン系薬剤【当院採用薬：イミグラン錠、イミグランキット皮下注、レルパックス錠、マクサルト RPD 錠（口腔内崩壊錠）、アマージ錠】

これらのお薬は、過度に拡張した脳血管を収縮させ、神経性の炎症を抑えることで頭痛発作を抑えます。頭痛発作が起こってからお薬を用いることで頭痛を改善でき、発作に伴う吐き気や嘔吐も改善します。痛みを感じてから 30 分以内に薬を服用することが効果的です。

・エルゴタミン製剤【当院採用薬：ジヒデルゴット錠、クリアミン配合錠 A（エルゴタミン、カフェイン、イソプロピルアンチピリン）】

これらのお薬は、血管を収縮させる作用があり、脳の血管の拡張を防ぐことによって痛みを抑えます。古くから片頭痛の治療薬として使われてきましたが、現在は、上記のトリプタン系薬剤を服用できない場合やトリプタン系薬剤で頻回に頭痛の再燃さいねんがみられる患者さんに使用されます。

トリプタン系薬剤やエルゴタミン製剤の他にも、アセトアミノフェンやアスピリンなどの解熱鎮痛薬（NSAIDs）や、吐き気がある場合には制吐剤を用いることもあり、市販の鎮痛薬を使用することも可能です。

●片頭痛を予防するお薬：片頭痛を予防するお薬は、頭痛発作の回数を減らしたり、発作時の痛みの程度を軽減する目的で用いられます。カルシウム拮抗薬（テラナス）、β遮断薬（インデラル）、抗てんかん薬（デパケン、セレニカ R）が挙げられます。通常 3～6 ヶ月は治療を継続し、片頭痛発作の回数や程度が軽くなり効果がみられたら、医師と相談の上、徐々に減らしていき、可能であれば中止します。

市販の鎮痛薬を使用する場合、製品によって含まれている成分や配合の割合が異なるものがありますので、お薬のパッケージや添付文書をよく読み、ご不明な点がある場合には医師又は薬剤師へ相談するようにしましょう。また、市販のお薬を使っても症状が改善されない場合や、いつもと違う痛みを感じた場合などは早めに受診するように心がけましょう。

